

制定年月日 2017.07.01

改訂年月日 2020.06.04

# 施 工 要 領 書

フッ素樹脂系光触媒含有コーティング剤

ピュアコート溶剤

施工に関するお問い合わせ

株式会社ピアレックステクノロジーズ

本社・研究センター 〒595-0016 大阪府泉大津市条南町 4-14

TEL : 0725-22-5361

FAX : 0725-22-5363

東京営業所 〒111-8520 東京都台東区寿 3-14-11

蔵前チヨダビル 7F

TEL : 03-5830-0055

FAX : 03-5830-0056

中部営業所 〒510-8114 三重県三重郡川越町亀崎新田 77-568

TEL : 059-363-5151

URL : <http://www.pialex.co.jp>

## I. 下地

適応下地=2 液溶剤塗料等

- ・推奨事項：淡彩色 例:日塗工番号 N-50 以上 マンセル値 N5 以上  
それ以下の場合、塗装密着及び光触媒効果に不具合がでる可能性があります。

下地塗膜に関して

- ・1 液の溶剤系塗料には施工できません。
- ・下地基材の表面処理(防水処理等)は確実に行ってください。  
シーラー、プライマー、さび止めに不備がある場合、塗膜劣化や外観異常等が発生する可能性があります。
- ・下地となる塗料は各塗料メーカーの施工要領に従って施工してください。
- ・下地塗膜の乾燥時間（各塗料メーカーにて定義されている乾燥時間）は厳守してください。指定がない場合、春夏秋期は 24 時間,冬期 36 時間以上乾燥させてください。
- ・下地塗膜が乾燥不十分の場合、ピュアコート溶剤施工後に、外観異常が発生する可能性があります。
- ・吸い込みの著しい下地には施工できません。光触媒効果が見込めない可能性があります。
- ・塗装面の汚れ、付着物等は除去してください。

## II. ピュアコート溶剤施工前確認

- ・ピュアコート溶剤施工前にホースやスプレー等塗装器具を IPA 又はシンナーで洗浄してください。他塗料などが混入すると機器の故障や、塗装不良が発生する可能性があります。
- ・ピュアコート溶剤の容器底部に沈殿物がある場合は十分に攪拌を行ってください。沈殿物が残ったまま施工を行うと機器の故障や塗装不良等が発生する可能性があります。
- ・下記環境条件の該非を確認してください。

気温:5~40℃

湿度:75%以下

風:ビューフォート風力階級 4 未満

天候:晴～曇

あてはまらない場合、ピュアコート溶剤は施工できません。

成膜、密着、外観不良及び光触媒効果に不具合が発生する可能性があります。

- ・結露発生時に施工を行わないでください。
- ・塗装途中に降雨及び降雪の可能性が高い場合は、施工を控えてください。

### Ⅲ. ピュアコート溶剤について

荷姿	ポリ容器 5L:3kg 13L:8kg
液性状	乳白色液体、特徴臭
消防法による危険物区分	危険物 第四類 第一石油類 水溶性
安衛法表示対象物質	イソプロピルアルコール(IPA)、酢酸ブチル
比重(at25℃)	0.8
粘度(at25℃/B型粘度計)	6.0±2.0sec
pH	8.0~10.0

- ・ピュアコート溶剤は光触媒である酸化チタンが配合されている為、仕上がり外観が白く仕上がる場合があります。
- ・購入後3ヶ月以内に使用してください。
- ・開封後14日以内に使用してください。
- ・冷暗所にて保管してください。火気厳禁です。

### Ⅳ. ピュアコート溶剤施工仕様

適正施工	吹付
塗装回数	2回
塗出量	1回当たり0.035~0.045kg/m <sup>2</sup> 2回合計0.07~0.09kg/m <sup>2</sup>
塗装可能面積	13L容器(8kg): 89~114 m <sup>2</sup> , 6L容器(3kg): 33~42 m <sup>2</sup>

- ・ローラー施工はできません。仕上がり外観不良の原因となります。
- ・必ず2回吹付をおこなってください。  
WET on WETは不可です。光触媒効果が得られない可能性があります。
- ・吐出量過多の場合はタレや液たまりが発生し仕上がり外観不良になります。
- ・吐出量不足の場合は機能や効果が発現しにくくなる可能性があります。

#### 吹付機セッティング(ホース長さ:30m)

吹付機	チップ	口径 (mm)	吐出圧 (MPa)	空気圧 (MPa)
エアコートガン	精和産業社製ターンWチップ0940	0.23	4~5	0.1~0.3
	ワグナー社製3000ACチップ9/40or9/50	0.23	4~5	0.1~0.3
エアレス塗装機	精和産業社製ターンWチップ0940	0.23	4~5	—
	ワグナー社製トレードチップ2409	0.23	4~5	—

※標準仕様です。使用環境により変動する可能性があります。

カップガン仕様：手でエア調節が可能なカップガン

口径 1.0mm 以下、空気圧 0.2~0.3MPa、パターン幅約 30cm  
コンプレッサー1馬力以上

- ・指定チップ以外では施工不可です。  
吐出量制御が非常に困難で外観異常や性能不良の原因となります。

## V. ピュアコート溶剤塗装

- ①施工前に天候や気温等気象条件を確認してください。(気温:5℃ 湿度:75%未満)
- ②塗装面に結露や未乾燥等異常がないか確認してください。
- ③施工前に容器に記載されている注意事項、SDSを確認してください。
- ④保護マスク、保護メガネ、保護手袋及び前掛け等保護具を着用してください。
- ⑤ピュアコート溶剤を十分に攪拌してください。

施工中も 30~60 分に 1 回程度攪拌してください。

- ⑥吹付機セッティングを再度確認してください。  
必ず目立たない箇所等でためし塗装を行ってください。
- ⑦塗装面と吹付スプレーの距離は約 30cm 程度の距離を保ってください。  
一度に大量吹付を行うと、低粘度の為、塗液が垂れます。
- ⑧縦・横 1set で 1 回の塗装とします。

2 回吹付では(縦・横 1set)→乾燥→(縦・横 1set)となります。

塗装間隔(インターバル)の目安

施工時気温(℃)	塗装間隔(インターバル)時間(分)
10	60
20	30
35	20

塗装間隔(インターバル)時間の最長は 1 週間です。

- ⑨十分に乾燥するまで、施工面には触れないでください。
- ⑩塗料設計上の性能を発揮する為には、上記項目を厳守してください。

## VI. 施工終了後及び補修

ピュアコート溶剤の防汚性(親水性)確認

施工完了後、春夏秋期 3 時間,冬期 24 時間以上十分に乾燥させた施工箇所に霧吹き器等で塗膜親水性確認をしてください。

【注意】乾燥が十分でない状態での親水性確認は、塗膜異常の原因になります。

- ・塗膜表面で水がなじむ(水膜が形成される)→親水性による防汚性が発現しています。
- ・塗膜表面で水滴ができる(水がはじく)→親水性不足です。

再度ピュアコート溶剤を施工して、乾燥後防汚性(親水性)確認を行ってください。

施工完了してからの補修方法

補修部分を IPA やシンナーなどで拭き再度上塗り施工をしてください。

(引っかけ傷等の場合は刷毛を利用してください)。

塗料の垂れが残ってしまった場合

ウエス等で叩くように塗料を吸い込ませ、再施工してください。

施工後、仕上がり外観異常が発生している場合(白ボケ、斑が目立つ等)

再度、塗り壁材から塗装してください。

改修または再塗装の場合、必ずシーラーの塗布から行ってください。

シーラーは2液溶剤型エポキシプライマーを使用してください。

## **VII. 安全衛生上の注意**

- ・本品は塗料としての用途以外に使用しないでください。
- ・塗装中、乾燥中ともに換気を良くし、蒸気ガスなどを吸い込まないようにしてください、屋外で使用する場合は、使用する場所に隣接または近接する家屋の換気口、空気取り入れ口などして、蒸気、ガスなどが屋内に入らないようにしてください。
- ・塗料の臭気なくなるまで換気をしてください。
- ・取り扱い中はできるだけ皮膚に触れないように、必要に応じて防塵マスク、保護メガネ、頭巾、保護手袋、長袖の作業着を着用してください。
- ・衣服などに付着した場合は直ぐに汚れを落としてください。
- ・容器は転倒、落下、衝撃をあたえる等、粗暴な行為をしないでください。
- ・塗料を出した際はその都度ふたをしてください
- ・容器からこぼれた場合には、ウエス等で直ぐに拭き取ってください。
- ・取り扱い後は手洗い、うがい、鼻孔洗浄を十分に行ってください。
- ・容器はふたをすると共に、直射日光、40℃以上の高温、高湿を避け、火災、腐食、凍結の恐れのないところに保管してください。
- ・子供や部外者の出入りしない所で保管してください。
- ・廃塗料、廃容器、洗浄水、洗浄容器等は産業廃棄物として処理してください。
- ・絶対に排水溝、地面、河川などに流さないでください。
- ・目に入った場合は直ちに多量の清水で15分以上洗浄し、直ぐに医師の診察を受けてください。
- ・皮膚に付着した場合は直ちに多量の石鹼水で洗い、炎症等の痛み、外観に異常がある場合は医師の診察を受けてください。
- ・気分が悪くなった場合は、空気の清浄な所で安静にし、回復しない場合は医師の診察を受けてください。
- ・誤って飲み込んだ場合は車の運転はせず、医師の診察を受けてください。

※詳しい内容が必要な場合は製品安全データシート（SDS）をご参照ください。